泉のほとり

●三位一体後第十九主日

今月の詩編「第九十九編」

我らの神、主をあがめよ。
その聖なる山に向かってひれ伏せ。
我らの神、主は聖なる方。



救いを達成するように

ローマの獄中にいた使徒パウロは、自分の受けた苦難を、ただ悲しい出来事とは見ませんでした。それによって兄弟たちが力づけられ、福音が前進し、また自らを救いへと導くものになると見ていました。それゆえ、反対と苦難の中にあったフィリピの兄弟たちにも、「キリストのために苦しむことも、あなたがたに恵みとして与えられている」と語ったのです。そこには、この世が決して与えることのできない救いと、それに伴う喜びが備えられていたからです。

使徒パウロは「たましいを共にして、一つのことを思うように」「利己心や虚栄心による高ぶりからではなく、へりくだった心になるように」と勧めました。そのへりくだりと従順は、キリスト・イエスに見られるものです。キリストは神の身分でありながら、ご自分を無にしてしもべの身分となられ、十字架の死に至るまで従順であられました。

そして、そのことを受けて「だから」と話を続けます。「だから、私が共にいるときだけでなく、いない今はなおさら従順でいて、恐れおののきつつ自分の救いを達成するように努めなさい」と。すでにキリストを信じ、教会として召された人々に、なお「救いを達成するように」と語られるのです。

人は「すでに救われたのではないか」と戸惑うかもしれません。しかし、その戸惑いを解消するために、使徒の言葉を弱めてはなりません。イスラエルの民がエジプトの奴隷から贖い出された後、律法を与えられ、罪と汚れから清められて聖なる民へと導かれたように、召し出されたことが終わりではありません。この世から贖い出された者が、悪意、偽り、偽善、ねたみ、悪口を捨て、なお聖なる者へと変えられていく「救い」があるのです。

その救いを「恐れと震えをもって」成し遂げるようにと教えています。本来、人は聖なる神に近づくことができません。神の圧倒的な聖とご臨在の前に震えることができるのは、生きておられる神を知っているからこそです。神の聖を知っているからです。自分を知り、自分をわきまえる人は、キリストの十字架の恵みが、どれほど規格外のものであるかも知らされるでしょう。神を恐れないこの世にあって、神を直に見ているかのように震える良心は、世にあって光り輝く神の賜物です。

しかし、この「努め」は、律法の下で奴隷のように義務を果たすことではありません。「あなたがたの内に働いて、御心のままに望ませ、行わせておられるのは神」だからです。罪のないきよいものを愛し、キリストのへりくだりと従順に倣って生きたいという望みを抱かせ、そのために行わせてくださるのも神です。私たちは奴隷のようにではなく、抱かせてくださったその望みに従って努めるのです。

だからパウロは、「何事も、不平や理屈を言わずに行いなさい」と語ります。そうすれば、よこしまで曲がった時代の中で、とがめられるところのないきよい者、傷のない神の子となり、世にあって星のように輝き、命のことばをしっかり保つ者となるからです。

フィリピの兄弟たちが、傷のない聖なるいけにえのように自分自身をささげる者となるなら、パウロは自分の血、命さえ惜しまないと言います。そして、「私は喜びます。あなたがた一同と共に喜びます。あなたがたも喜びなさい」と語ります。人がキリストに従い、清められ、他者のために自分自身を惜しまない者へと変えられていくことこそ、神に喜ばれる礼拝であり、その人自身にとって最も大きな幸いと喜びだからです。

私たちをこの世から贖い出されたキリストの願いは、今も続いています。不平や理屈、疑いを捨て、神が内に抱かせてくださる望みに従い、それぞれ到達したところから前進して、自分の救いを成し遂げるよう努めていきたいのです。

（フィリピ二章一二〜一八節 黄 允湜 牧師）

《私たちのビジョン》

主イエスの愛の中で、
愛と交わりを通して
お互いに成長する教会

《２０２６年度
教会全体課題》

神さまによって
示された新しい歩みの中で、
キリストの体としての一致を
祈り求める
ーコミュニケーション、交わり、
伝道、学びなどを通してー

《今日のお知らせ》

○次回の洗礼式と転入会式は一二月二〇日のクリスマス礼拝の際に行う予定です。受洗・転入会をご希望の方は願書をお書きになり、今日までに牧師宛ご提出ください。願書は教会事務所にあります。

○本日、吉村和雄名誉牧師は日本基督教団片倉教会の伝道礼拝で奉仕のため、不在です。

《役員会からのお知らせ》

本日一二時一五分から教会員懇談会を開催します。先週配布された月報をもって地下ホールにお集まりください。

《ぶどうの会より》

本日、ぶどうの会はお休みです。

《ミニミニバザーのお知らせ》

ホール集会後、ミニミニバザーの仕分けと値付けを行います。ご奉仕いただける方は、ホール集会後にディアコニアショップ前にお集まりください。

《交読詩篇》

※会衆は太字の箇所を唱和します。
(司・会)の箇所は司式者と会衆が合わせて唱和します。

【詩篇九十九篇】

主こそ王。
諸国の民よ、おののけ。
主はケルビムの上に御座を置かれる。
地よ、震えよ。
主はシオンにいまし、大いなる方。
すべての民の上に高くいます。
御名の大いなること、畏るべきことを告白せよ。
(司・会)
主は聖なる方。

力強い王、裁きを愛し、公平を固く定め
ヤコブに対する裁きと恵みの御業を
御自ら、成し遂げられる。
我らの神、主をあがめよ。
その足台に向かってひれ伏せ。
(司・会)
主は聖なる方。

主の祭司からはモーセとアロンが
御名を呼ぶ者からはサムエルが、主を呼ぶと
主は彼らに答えられた。
神は雲の柱から語りかけ
彼らに掟と定めを賜り
彼らはそれを守った。
我らの神、主よ、あなたは彼らに答えられた。
あなたは彼らを赦す神
彼らの咎には報いる神であった。
我らの神、主をあがめよ。
その聖なる山に向かってひれ伏せ。
(司・会)
我らの神、主は聖なる方。

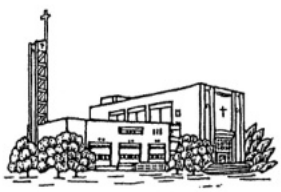
《今日の子ども礼拝》

●子ども礼拝(午前9時20分・地下ホール)
説　教　「アブラハムの信仰」
聖　書　創世記22章1~19節
説教者　黄 允湜 牧師

《次週の礼拝》

●子ども礼拝(午前9時20分・地下ホール)
説　教　「選ばれた人ヤコブ」
聖　書　創世記25章27~34節
説教者　吉村 和雄 名誉牧師

●主日礼拝(午前10時30分・礼拝堂)
讃美歌　20番　374番
説　教　「真実に人を心配する人」
聖　書　フィリピ10章19~24節
説教者　黄 允湜 牧師





主日礼拝 (午前１０時３０分)

讃美歌　　３番　　１９１番
説　教　　「すべての人の主」
聖　書　　使徒１０章３４～４８節(新約 P.233)
司　式　　山下 純一 兄
聖餐司式　黄 允湜 牧師
説教者　　宮間 彰広 兄

前奏曲「トッカータ ハ長調」J.P.ｽｳｪｰﾘﾝｸ

○讃美歌３番

１.あめつちの御神をば ほめまつれ人の子よ
　われらが主のみとのこそ 照りかがやけ いや栄えて

２.ひかりをばころもとし くろくもをくるまとし
　いかずちしてさき駆わせ よろず治らすかしこさよ

３.いとくすし主の律法 雪と敷き 雨とふり
　谷をはしり野にながれ 風とそよぎ花と咲く

４.ちりひじに生りし身は 主にたよるほかぞなき
　代々かわらぬみめぐみや わが御神よ わが父よ
　　アーメン

※礼拝のしおりと讃美歌をお持ちください。

○聖歌隊による讃美
「人は主を求めている」
　　G.NELSON and P.McHUGH作曲
通り過ぎ行く人の目の中　虚しさ恐れ 誰が知る
笑いの下の生きる痛み　叫び聞くのは 主イエスだけ
＊人は主を 求めている
　敗れた夢の 最後の扉（開いた扉）
　人は主を 求めている
　救いの主を求めている＊
暗闇の中　贖いの主の愛こそが 我らの心結ぶ
共に苦しみ 分かち合い
み言葉により 命受ける　（＊～＊　繰り返し）
我らすべて 主に捧げん 主に

○讃美歌１９１番

１.いともとうとき 主はくだりて
　血のあたいもて 民をすくい
　きよき住居を つくりたてて
　そのいしずえと なりたまえり

２.四方のくにより えらばるれど
　のぞみもひとつ わざもひとつ
　ひとつのみかて ともに受けて
　ひとりの神を おがみたのむ

３.数多のあらそい み民をさき
　世人そしりて なやむれども
　かみはたえざる いのりをきき
　なみだにかえて 歌をたまわん

４.世にのこる民 去りし民と
　ともにまじわり 神をあおぎ
　とわのやすきを 待ちのぞみて
　君の来ますを せつにいのる　　アーメン

聖餐曲「神よ、その恵みによりて我を」J.G.ｳﾞｧﾙﾀｰ

後奏曲「ピスガ」 D.ｳｯﾄﾞ